

新政クラブ



大塚 忠司

コンパクトなまちづくりを

問 人口減少社会の到来などを踏まえる中で、人々の生活に必要な都市機能を誘導し、いくつかの拠点居住エリアを形成しながら、それらを交通ネットワーク等で結んだコンパクトな

都市空間の形成が必要と認識するが、考えは。

答 都市再生特別措置法が改正され、コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向け、より実効性のある立地適正化計画が市町において作成できることとなった。

計画は、本市がめざす歩いて暮らせるまちづくりや持続可能なまちづくりの推進につながるものと考えている。
現在、関連施策との調整を図りながら基本方針（案）の策定に着手している。

女性の視点でのまちづくりは

問 本市の人口の社会動態は進学や就職に伴う市外への流出が起こっており、特に女性の人口流出が顕著である。出生数の減少は女性の人口減少によっても生じるため、女性の視点での環境改善が望まれるが、考えは。

職場づくりなどについて意見交換会を行った。

ふくやま女性テラスでは、子育てと女性の活躍について議論し、女性が働きやすい社会の仕組みづくりとして、ワーク・ライフ・バランスの推進の必要性などの提案があり、重点政策へつなげたところである。

今後も、活力と成長力のあるまちづくりに向け、女性の視点で市民ニーズを洗い出し、多様な価値観に対応した、より効果的な市政運営につなげていく。

答 昨年、大学や民間企業、NPO団体等に所属する女性で構成した「ふくやま女性テラス」を立ち上げた。また、庁内では、女性管理職を対象に女性が活躍できる

一般質問

この定例会では、議案や市政全般について、4人の議員が一般質問（全員が一問一答方式を選択）を行い、活発な議論を展開しました。その概要は、次のとおりです。

*一般質問の録画放送を福山市のホームページで見ることができます。



大田 祐介
水曜会

（仮称）備後圏域ワインプロジェクトは

問 連携中枢都市圏の7市町と共同で、（仮称）備後ワイン・リキュール特区を申請した狙いは。

での特区は全国初だと国から聞いている。

こうした特色ある特区のPR効果を活用し、備後産ワインや、ワインづくりへの関心を高めることで、小規模企業者等の参入を促し第1次産業の活性化や観光振興などにつなげていきたい。

また、広域で特区認定を受けることで特区内の他市町のおどろ等が活用できるため、関連事業者の

答 ワイン等は備後圏域らしさが打ち出せる地域資源の一つであり、県境を越えたワイン等の広域



リスク軽減や、ぶどう農家等の販路拡大などが期待できる。

*コンパクト・プラス・ネットワーク：医療・福祉施設、商業施設や居住等がまとまって立地（コンパクトなまちづくり）し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセス（公共交通ネットワークとの連携）できるように、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直していく考え方。

*ふくやま女性テラス：市民等の多様な価値観に対応し、効果的な施策へとつなげるため設置した会議。